

2024年（令和6年）度 海外帰国生徒入学試験（国際バカロレア等を含む）A日程 問題

小 論 文

2023年10月22日 実施

【解答上の注意】 答案は別紙解答用紙に、左横書きで書いてください。
この問題用紙の余白や裏面を下書きなどに利用してもかまいません。

《課題文》

文字のなかった日本に中国から漢字が渡来し、その漢字からひらがなやカタカナが生まれた。文字をめぐって日本の古代に起こった大事件と同じ現象が十五世紀にはじまる大航海時代にも明治維新にも第二次世界大戦後にも繰り返された。

外国から新しい文化が到来したとき、この国でまず起こるのは全面的な受容である。これが可能なのは日本という国がもともと空っぽの国だったからである。珍しい、ときには珍奇であっても外来文化は一応喜んで迎え入れる。振り返れば、どの時代にも外来文化を率先して迎え入れる「外国かぶれ」たちがいた。古代の唐かぶれ、安土桃山時代の南蛮かぶれ、江戸時代の和蘭陀かぶれ、明治時代の西洋かぶれ、そして戦後のアメリカかぶれと呼ばれた人々である。

— 中略 —

外来文化を歓迎して迎え入れる受容の次の段階は、その中からこの国にふさわしいものだけを選び出すことである。この選択の規準となるのは蒸し暑いこの国に暮らす人々の好みに合うか、つまり涼しげであるかどうかだった。

安土桃山時代の茶人たちはその達人だった。南蛮貿易によって中国、朝鮮、フィリピン（ルソン）、安南（ベトナム）のさまざまな陶磁器が海を渡って博多や堺の港に運ばれてきた。茶人たちはその中から簡素な茶室に合う焼き物を選び出した。この選択また選択者を目利きという。海外からの渡来物であれ国内で作られたものであれ、どこにでも転がっていきそうな壺や茶碗が、彼らの審美眼によって価値を見出され、茶器として取り立てられると、たちまち人々の欲望的となって法外な値で取り引きされ、末永く名器とたたえられることになった。

こうして選び出されたものはさらに日本人が手を加えて変容させる。これが日本文化創造の第三の段階である。ではどう作り変えるか、これもまた蒸し暑いこの国の人々の好みにそって進められた。漢字から生まれたひらがな、カタカナはその好例だが、ほかにもさまざまな外来文化がこの国の人々の好みに合うよう、この国の夏に耐えられるよう作り変えられた。

上巳（雛祭り、三月三日）、端午（五月五日）、七夕（七月七日）、重陽（九月九日）などの五節句は古代に暦とともに中国から伝わった。年の初め人日（一月七日）の節句には中国では七種の穀物、米、麦、小麦、粟、黍、大豆、小豆を入れた羹（煮込み）を食べた。一月七日を七種と書くのはこれに由来する。この中国の七種が日本に伝わると、七種の穀物は芹、薺、御形、はこべら、仏の座、菘（蕪）、蘿蔔（大根）という七つの春の草に変わり、七種の羹は七草粥に変わる。穀物から草へ、この変化は漢字が草仮名となり、ひらがなとなった変容の過程をただちに思い起こさせるだろう。

団扇は中国では蠅や蚊などのいやな虫を追い払う道具、蠅叩きのようなものだった。これが日本に伝わると手であおいで涼しい風を起こす道具に変わる。扇は中国伝来の紙と竹を使って初めから日本で考案された。風鈴の起源は中国風寺院の屋根の四隅にぶら下げる魔除けの風鐸だった。これも日本にもたらされると風に吹かれて涼しげな音を響かせる風鈴になった。

近江の鮎鮓のような馴れ鮓から酢を利かせた握り鮓や押し鮓が誕生したのはなぜか。食べ物のすぐ腐る夏、酢は腐敗を防ぎ、夏ばて予防にもなるからである。蕎麦掻きから蕎麦切り（現在の蕎麦）が生まれたのはなぜか。蕎麦掻きをもそもそ食べるのは暑苦しいが、細くきった蕎麦を吸るのは目も涼しげだからである。

一つ一つ挙げると際限がない。この国に伝わった海外からの渡来品はこうしてみな受容、選択、変容という三つの段階を経て日本にふさわしいものに姿を変えていった。それは涼しいように、暑苦しくないようにという、兼好法師が『徒然草』に書いた「夏を旨とせよ」という鉄則に従っていた。これが和の創造力の運動のしくみである。この何もない空っぽの島国では太古の昔からこの和の創造力が働きつづけてきた。それは過去のものでなく、この国から蒸し暑い夏がなくならないかぎり永遠に働きつづける日本文化創造の原動力なのだ。

（長谷川權著『和の思想：日本人の創造力』より）

《問 題》

課題文を読み、以下の指示に従って答えなさい。

- (1) 日本が外国から新しい文化を取り入れる過程においてどのような力が働いてきたと筆者は考察しているか。
200字以上300字以内で解答欄①に書きなさい。
- (2) 次の問いへの答えを、300字以上500字以内で解答欄②に書きなさい。

問：筆者の言う「和の創造力の運動のしくみ」を踏まえた上で、これからの日本社会の文化についてどうあるべきかを考察せよ。